

2025年度 事業計画書

(1) 2017年度より10年間の長期計画

地域の多様なステークホルダーと共に、課題解決と理想実現を目指して集合知を生み出しながら活用する手法（コレクティブ・インパクト）を用いて、誰もが本当の豊かさを追求できる「役割と稼ぎがめぐりめぐる地域社会」づくりに取り組みを進めています。

(2) 長期計画を実現するための当面の取組み

長期計画を実現するために、別紙添付の通り、ロジックモデル案を作成し、改めて、中長期アウトカム、短期アウトカム・短期アウトプットを整理し、実現するための柱を3つに定め、事業を整理しました。2024年度にはロジックモデル暫定版を進化させながら、成果指標をより具体化し、事業ごとに達成状況の評価を行っていきます。

(3) 2024年度—2026年度の事業実施の方針

中長期アウトカム	役割と稼ぎがめぐりめぐる地域社会の実現
短期(2023—2026年) アウトカム	柱1:地域コミュニティの中で、多様なステークホルダーと共に“共助”を再定義し、住民自治が地域に根付くモデルを生み出し、他地域にその輪が広がっていく状態。
	柱2:自分の好きや得意を生かし、楽しいことは自分たちで作る！文化を育む市民のプランナーが、チャレンジし、表現しやすい環境がある状態。
	柱3:平時は住民の活動線上において、関係性を育み、災害時にはハブとなるコーディネーターがいる状態。

上記をめざして、下記の通り事業を行います。

柱1 団地型自治の進化・モデルづくり

<1>公社茶山台団地における団地再生事業への協働

自治会等既存組織へのサポート

- ①「茶山台としょかん」の運営
- ②住民自治によるコミュニティ支援事業

中間支援組織として、プラットフォーム会議の運営

団地ライラボat茶山台のコーディネーター＆バックオフィス

- ③自治会の仕組みの再構築スリム化

<2>小さなコミュニティビジネスの社会実験・コミュニティ支援

- ①やまわけキッチンの運営

<3>団地型自治のモデルやノウハウを広げるための視察対応

- ①茶山台団地再生の取り組みに興味を持つ方への視察対応

柱2 エリアの価値向上

<1>泉ヶ丘駅前エリアマネジメント事業

- ①つながるDays・つながる食堂によるプレイヤーの発掘と事業化のサポート

<2>事業者・市民の協働プラットフォーム・ハブ人材の掘り起こし

- ①スマートシティコンソーシアムとの協働
- ②市民ハブ人材との協働促進

柱3 担い手(コーディネーター)育成・個人や組織の伴走支援

<1>泉北ニュータウン災害時に活躍できる平時からのコーディネーター育成事業

- ①新しい担い手を発掘し、連携し、学び合う関係性を育む
- ②平時のコミュニティビジネスの広がり

その中でも特に2025年度は下記に力を入れて取り組みます。

SEINが「役割と稼ぎがめぐりめぐる地域社会の実現に向けて」、泉北ニュータウンに、来年(2026年)度には10年を迎えます。資金調達の多様化や地域との連携強化を図りながら、NPO法人としてより自立し、地域社会に貢献できる組織へと成長するために、さまざまな取り組みをおこなってきました。

今後もさらに地域社会に安定して貢献するために、持続可能な組織力をつけていくかを試行錯誤しつつ、今年度に行う事業一つひとつに、丁寧に取り組んでいきます。

①団地型自治の進化・モデルづくり

特にこれまで取り組んできた団地型自治の進化・モデル作りにおいて、10年間で培われた成果を明文化し、茶山台団地で作ったモデルの収益化をめざします。

そのために、

(1)茶山台団地内で生まれた団地ライフラボat茶山台のコミュニティビジネスの有償化の伴走支援

例えば、グリーンスローモビリティを活用した移動支援について、受益者負担だけではなく、広告連携や、ラストマイル配送(商品が最終顧客の手元に届くまでの物流の最後の区画)との兼業など、複合収益モデルの検討等

(2)視察対応について、視察パッケージを自分たちで設計し、値付けを行う。またワークショップや街歩き等を組み合わせるなど単価を上げる工夫も行い、予約決済なども自団体で受付し、更なる商品化へと進化させる

などを検討し、それらを通して、茶山台団地で作った、「役割と稼ぎがめぐりめぐる=地域が持続可能に、ヒト・カネ・モノ・情報が回りまわる」モデルの収益化をめざします。

②フェーズフリーなコーディネーター養成

茶山台モデルの横展開として、特に地域で活躍できるハブとなるコーディネーター人材の育成について力を入れます。

(1)「フェーズフリーなまちづくりコーディネーター」のための予備校の実施、茶山台で培ってきたコーディネーターの言語化を行い、テキスト作成に取り組み、人材育成のノウハウのパッケージ化を行う。

(2)仲間となったコーディネーターが、「役割と稼ぎがめぐりめぐる地域社会」の実現に向けて、地域で持続的に活動ができるように、泉北ニュータウンというベッドタウンにおいても稼ぎがめぐりめぐる地域社会を築くために、公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団と連携して取り組む。

③組織の基盤力につけるために、バックオフィスを外注する。

特に、働く人の環境づくりに力を入れ、総務・労務的なことを整える。

- | |
|--------------------------------------|
| ①スマートシティコンソーシアムとの協働
②市民ハブ人材との協働促進 |
|--------------------------------------|

No.	事業名	事業実施について	財源	実施予定日時	実施予定場所	担当	2025年度予算
柱3 担い手（コーディネーター）育成・個人や組織の伴走支援							
<1>泉北ニュータウン災害時に活躍できる平時からのコーディネーター育成事業							
①新しい担い手を発掘し、連携し、学び合う関係性を育む ②平時のコミュニティビジネスの広がり							
1	地域の共助力・起動力を高める地域中間支援組織による防災・災害支援事業	●災害時にハブとなるコーディネーターの育成	助成事業 (NPO法人Etic)	通年	泉北ニュータウン	湯川 青山 宝楽 長堂	14,750,000
2	和泉市生涯学習センター「いずみ市民大学」まちづくり学務業務	●いずみ市民大学のコーディネート・人材育成	委託事業 (JTBコミュニケーションズ)	通年	和泉市	宝楽	2,388,000
3	講師派遣事業	●桃山学院大学地域連携機構連携授業 ●大阪ええまちアカデミー講師派遣 等	自主事業	通年	全国	湯川 宝楽	1,000,000
4	事務局支援事業	●泉北のまちと暮らしを考える財団 ●地縁組織支援	自主事業	通年	堺市内	湯川 宝楽	500,000